

～ 北見赤十字病院の様々な取組について ～

<北見赤十字病院中長期運営方針>

1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します。
2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります。
3. 災害への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います。
4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます。
5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます。
6. 地域に開かれた病院を目指します。

項目	令和元年度の取組み
1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します	
1) 患者本位の医療	・患者さんに副用いただくお薬についての説明体制を強化。 月平均実績件数1,086件(昨年度930件)
2) 侵襲の少ない医療	・内視鏡手術支援用ロボット(ダヴィンチ)について、泌尿器科分野(前立腺悪性腫瘍手術)で稼働開始。膀胱、肺の手術にも対応できるよう準備を進めた。 ・患者さんの負担が少ない、内視鏡等を使用した手術等を積極的に実施。 ・内視鏡手術(消化器) 1,001件 ・腹腔鏡手術 727件 ・胸腔鏡手術 144件 ・内視鏡手術(泌尿器) 322件 ・内視鏡手術(頭頸部・耳鼻咽喉科) 57件 ・関節鏡下手術 40件 ・カテーテル治療(心臓) 252件 ・カテーテル治療(脳) 53件 ・放射線治療(IMRT) 122件 ・放射線治療(SMART) 31件
3) 質の高いチーム医療	・R1.1 院内救急対応システムの検討開始。 ・R1.7 患者さんの入院業務を一括して行う「入院センター」設置に向け、入院センター準備室を設置。 ・認知症サポーター養成講座開催。
4) 第三者機関による機能評価受審	・R2.1月 卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定。臨床研修病院として研修プログラム等が適切であることが認められた。 ・R2.2月 放射線医療被ばく低減施設認定。医療被ばくを適正に管理していることが認められた。
2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります。	
1) がん・脳卒中・急性心筋梗塞・心不全・糖尿病・精神疾患・呼吸器疾患・整形外科的疾患・緩和医療・歯科診療の充実	・網走脳神経外科が手術を行わない方針を示したため、斜里・網走地域における救急医療体制を構築。 ・道立病院にて新たな心臓手術が実施可能となった。日赤病院、道立病院の連携により、手術実施の届出に必要な検査数が伸びたため。令和2年4月より実施。
2) 救急医療・へき地医療・周産期医療・小児医療・精神保健対策(認知症)の充実	・救急搬送を積極的に受け入れ、管外の医療過疎地域の患者さんも受け入れている。(救急車受入:3,588件) ・認知症に関する市民公開講座を実施。 ・北見市地域包括支援センターと共催で、「認知症カフェ」を、令和元年10月より月1回開催。 ・ヘリポート利用件数 当院へ搬送・・・7件 当院より搬送・・・9件 合計16件
3) 救命救急センターの安定維持	・救命救急センター評価基準充実段階A評価を維持している。 ・救急病棟と救急外来の一体的運営を実施。
4) リハビリテーション・健診体制の充実	・令和元年度実績 リハビリテーション 106,973単位(1単位20分) ・誤嚥性肺炎対策への関わりや脳神経外科患者への対応増により実施単位数増 健診 9,649件 ・健診は、新型コロナウイルスの影響で、2月末より全面的に稼働ストップとなった。
5) 救急ワークステーション(北見地区消防組合研修施設)との連携	・救急救命士と連絡を密にし、実習を積極的に受け入れている。(気管挿管講習等 計92名) ・Drカー稼働件数 22件
6) 地域完結型医療の推進・地域の医療施設や介護施設との連携推進	・血液疾患患者の増加を受け、無菌室を2床増床、令和元年9月より4床での稼働となった。 ・ファーストパス(地域連携予約)件数 11,172件 ・認知症・緩和ケア・介護等にかかる研修会への講師派遣(12件) ・地域医療機関等への医師等派遣 頭頸部・耳鼻咽喉科 122回 脳神経外科 12回 呼吸器内科(道立) 47回 内科 5回 消化器内科 1回 リハビリテーション科 9回 診療放射線科 21回 看護部 7回 ・当院職員及びオホーツク管内医療機関及び福祉施設職員対象に各種研修会を開催。 ・R1.6 認知症症例検討会(院内8名、院外63名) ・R1.6 輸血勉強会(院内39名 院外15名) ・R1.9 心不全患者に関わる多職種連携研修会(院内26名 院外108名) ・R1.9 褥瘡対策研修会(院内56名 院外121名) ・R1.11がん薬物療法勉強会(院内45名 院外11名) ・R1.11糖尿病教室2019in北見(院内39名 院外15名) ・がん看護研修会、勉強会を計8回開催(累計 院内250名 院外125名) ・内科系3診療科オープンカンファレンスを8回開催(累計 院内180名 院外20名) ・北見心電図・ABIカンファレンスを3回開催(累計 院内87名 院外81名) ・NST研修会・講演会を各1回開催(累計 院内106名 院外68名)
7) 地域への医療サービスの提供	以下のとおり医療スタッフを派遣。 ・サロマ湖100kmウルトラマラソン(8名) ・オホーツクサイクリング(2名) ・北見ぼんちまつり(2名) ・北海道マラソン(5名) ・網走マラソン(8名)
3. 災害への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います	
1) 災害医療への平時からの準備	・R1.5月 統括DMAT研修参加(東京都 1名) ・R1.8月 北海道DMAT研修受講(2名) ・R1.9月 DMAT隊員の大規模地震時医療活動訓練参加(千葉県 9名) ・R1.9月 赤十字災害救護訓練参加(4名) ・R1.9月 EMIS研修参加(3名) ・R1.11月 北海道DMAT実働訓練参加(7名) ・R1.12月 院内災害対応訓練実施(164名) ・R1.12月 DMAT技能維持研修参加(6名) ・R1.12月 DMATポジティブスティックチーム退院養成研修(1名) ・R1.12月 こころのケア研修会実施(28名) ・地域の災害救護訓練参加(北見(8名)・紋別(6名)・女満別(9名)) ・資機材点検実施(年2回) ※DMAT・・・災害発生時の急性期に活動する災害派遣医療チーム ※ポジティブスティック・・・災害時に情報収集、連絡調整、物資調達等に当たる職員
2) オホーツク圏域災害拠点病院(広域紋別・網走厚生・遠軽厚生・北見赤十字)の相互支援	・4病院協定に基づきR1.5月に網走市にて実働訓練を実施。
3) DMAT・救護班の出動及び国際活動への参加	・新型コロナウイルスにかかる業務支援要員として、医師1名、看護師2名、薬剤師1名を埼玉県和光市に派遣。 ・国際支援要員育成がR1年度末で転勤となり、不在となる。育成は引き続き課題である。

項目	令和元年度の取組み
4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます	
1) 職場環境の整備	・働き方改革の一環として、院内の会議の持ち方について検討を実施。開始時間、参加人数、回数の見直し等が活発となった。 ・職員の託児所のあり方について検討開始。
2) 職員研修の充実	・アメリカ ニューヨーク州のトリニタス病院と姉妹病院の協定を締結。今後、医師を始めスタッフの研修、交流を実施していく。 ・院外研修等への参加 研修等参加・・・延825名 学会発表・・・延108名
3) 臨床研修医、専攻医等の確保	・7名の研修医を採用。 ・昭和大学(東京都)、日赤医療センター(東京都)、松山赤十字病院(愛媛県)より、1ヶ月単位での臨床研修医受入(昭和11名、日赤医療センター1名、松山赤十字病院1名) ・泌尿器科にて、旭川大からの臨床研修医1名、小児科にて旭川赤十字病院からの臨床研修医1名を各1ヶ月間受入。 ・薬剤師4名採用。 ・薬学部学生への奨学金貸付実施(1名) ・看護学生への奨学金貸与実施(89名)
5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます	
1) 健全経営の維持	・R1年度は黒字決算となった。手術件数の増加等により診療単価が増加したことが要因。 ・光熱水費等の費用削減にも努めている。
2) ICT(情報通信技術)活用の拡大	・医師等の業務負担軽減のため、音声で文字を入力できる機器の導入検討を開始。
3) 医療機器の導入	・レントゲン等の画像を管理するシステムの更新に向け、多職種による検討を開始。
3) 医療安全、感染管理体制の充実	・新型コロナウイルスの拡大にあたり、対策本部を設置し職員一丸となって対応に当たる。対応陽性患者19名(入院9名、外来8名)また、感染拡大防止の観点から、入院患者への面会を禁止とした。 ・医療安全、感染症にかかる研修会、勉強会開催及び職員参加実績 医療安全関係 14回 延1,696名 感染管理関係 9回 延2,829名
5) 北海道立北見病院との一体的な医療提供体制構築	・両院手術室の相互利用に向け、看護師を中心とした打合せを開始。 ・臨床検査技師による、道立病院外来における採血業務の協力体制を構築。月・水・金の9～11時の間、検査技師1名が採血業務に対応。 ・精密呼吸機能検査装置の共同利用を開始 ・道立病院へ理学療法士1名を追加配置。呼吸器リハビリを本格稼働。 ・透析実施にかかる連携体制開始、日赤臨床工学技士が道立病院透析室に向き、業務習得を進めた。 ・日赤患者のペースメーカー手術、カテーテル検査を道立病院の専門の機能を備えた手術室で行う運用を開始。 ・両病院の物品や契約の統一・見直しを図り、経費削減に努めた。 ・相互診療応援実績 日赤→道立 74件 道立→日赤 2件 ・相互転院実績 日赤→道立 27件 道立→日赤 15件 ・外来紹介件数 508件 ・外来逆紹介件数 443件
6. 地域に開かれた病院を目指します	
1) 市民公開講座の実施	R1年度実施実績 市民公開講座 ・「移植医たち～著者の診た移植フロンティア～」(参加者 119名) ・「認知症になってもワシはワシ！」(参加者 250名) ・「糖尿病教室 2019in北見」(参加者 54名) ・「「がん」について考える」(参加者126名)
2) パンフレット・ICT(情報通信技術)・マスコミによる地域住民への医療情報提供	・報道機関を通じ、赤十字フェスタを地域住民へ周知。 ・ホームページ及び院内掲示により、中長期運営方針に基づく当院の取組を公表。 ・オホーツク管内の市町村廻りを実施し、患者数報告、収支報告に加えPETセンターを含めた病院紹介を実施。
3) 行政等による協議会への積極参加	・以下の会議等へ参加し、行政等との連携を図っている。 ・北網圏域地域医療構想調整会議 ・北網圏域地域医療構想調整会議医療専門部会 ・北網医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会北見地域多職種連携チーム会議 ・北網医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会 ・北網地域リハビリテーション推進会議 ・北見地域医療供給体制検討会議 ・北海道いじめ問題等解決支援外部専門家チーム ・エコチル調査北海道ユニット北見地区運営協議会 ・北見市特別支援教育連携協議会 ・感染症診査協議会 ・感染症協議会結核部会 ・北見市献血協議会 ・北見市子ども総合支援センター「きらり」発達障害通所児童診察相談業務及びケース会議 ・北見市医療福祉情報連絡協議会 ・認知症疾患医療連携協議会 ・北見保健所管内自殺対策連絡会議自殺未遂地域支援部会 ・北海道ブロック都道府県エイズ治療拠点病院等連絡会議 ・北海道HIV/AIDS医療者研修会並びに各職種連絡会議 ・公益財団法人北海道移植医療推進財団主催各種会議 ・北海道がん診療連携協議会 ・斜網地区救急体制検討会
4) 救急法等の啓発・普及	・奉仕団(ボランティア)と連携して講習を開催。(R1年度実績) 救急法(応急手当の知識・技術)13回 健康生活支援講習(高齢期に必要な健康増進の知識等)6回 幼児安全法講習(乳幼児の事故予防や手当)14回 ・赤十字フェスタの際に救急法体験コーナーを設置。